六月五雲会

六月二十日（土）
午後十二時始
開場　十一時
於　宝生能楽堂

演目の解説

能「歌占」（うたうら）

初めに父の病気の容態を知りたいと、父の行方を尋ねる子が登場します。不思議とよく当たると評判の神主に、占ってもらおうと待ちこがれています。小弓を持ち、髪の真っ白な神主が下げてある短尺を逢いに、男は神主に声をかけ、早速占ってもらうと、神主は男の選んだ短冊を出し、尺は心の歌を元に、重篤な病気での行方を尋ねるいと告げます。父のいない、一神主のには神主既子らなこに会ってて占ってを故郷へ地獄にも続いて父ってあいます。帰の有様ついてはてをクセ舞がいます。行舞わかが

狂言「雷」（かみなり）

都の藪医者が東国へ下り、武野の原藪医者が落ちて腰を抜かし、雷に歳出野の者をみつけた雷は、会の広まいす。原で空命じ医い広

能「杜若」（かきつばた）

今を盛りと咲き誇る杜若。三河の国橋を訪れた僧は、一人の呼び止め八ら橋れまの女下りに途中を

能「善知鳥」（うとう）

立奥の旅の途中、立山禅定の立ち寄った僧は、異様な雰囲気の老人に呼び止められ、陸奥外の浜を持つ漁師に伝まの言を、頼訝れる僧に老人証あつ拠も無しの時着て訪ねると、衣を取り一与

12:00 歌占
ツレ 亀井雄二
子方 水上嘉
シテ 水上優
後見 小倉伸二郎　小林晋也
大鼓 柿原弘和　小鼓 田邊恭資
笛 成田寛人
地謡 金森隆晋　藪克徳　小倉健太郎　佐野弘宜　金井賢郎

13:00 雷
金田弘明　高澤祐介

〈休憩十五分〉

13:35 杜若
シテ 川瀬隆士
ワキ 野口能弘
後見 宝生和英　澤田宏司
大鼓 佃良太郎　小鼓 森貴史
太鼓 大川典良　笛 小野寺竜一
地謡 辰巳大二郎　佐野玄宜　山内崇生　當山淳司　辰巳和磨

〈休憩十五分〉

15:10 善知鳥
ツレ 田崎甫
子方 藪俊太朗
シテ 和久荘太郎
ワキ 舘田善博
間 三宅右矩
後見 野月聡　東川尚史
大鼓 原岡一之　小鼓 住駒充彦
笛 杉信太朗
地謡 金森良充　高橋憲正　大友順　内藤飛能　朝倉大輔

終演予定　十六時二十分頃

次回予告

二〇二〇年七月十八日（土）
正午始

加茂　木谷哲也
藤　辰巳和磨
禅師曽我　朝倉大輔